令和元年度　地域貢献事業活動報告書

1事業名称	学校現場のニーズに応じた社会科歴史地域教材の開発と研修機会の提供
2事業推進者等	（所属部局）学校教育深化コース（文理深化・社会） （責任者職名・氏名）教授・浅倉有子 （共同実施者職名・氏名）教授・茨木智志ほか「文理深化・社会」領域所属全教員
3学外の連携機関等	（連携機関等名）新潟県社会科教育研究会 （担当者職名・氏名等）会長・武石勉（上越市立大和小学校長）
4事業の趣旨・目的	本事業は，上越地域の小中学校における社会科歴史地域教材を大学教員の専門性を活かして開発するとともに，その活用の研修機会を地域の社会科教育研究会とともに設定・提供することで，地域の教員の社会科授業実践力向上，地域の社会科授業改善を図り，将来の上越の地方創生に参画できる児童・生徒の育成に資することを目的とした。 本事業は，地域の教育界のニーズに応えて，本学教員の研究成果・スキル等を地域に広く還元するもので，先行事業成果が地域の小中学校及び図書館で所蔵・活用されているように，教育実践的・社会的公益性が極めて高い。また，本事業は上越地域を中心に社会科教育に取り組む新潟県社会科教育研究会と組織的に連携して計画されているため，事業遂行過程では，大学教員・本学学生と地域の社会科教員・関係する市民との幅広い協働と参画が見込まれる。本事業の遂行は，これまでの社会系の大学教員と新潟県社会科教育研究会の小中学校教員との連携した諸活動をさらに発展させたものであり，上記目的の達成について十分な成果が期待されるものである。
5事業活動報告	本事業は，大学教員と地域の教員等との協働による①社会科歴史地域教材開発とその成果物の地域の全小中学校・社会教育施設への無料配布，②地域教材開発・活用の研修機会の設定という計画の下で実施した。 2019（平成 31）年 4 月以降，大学教員と新潟県社会科教育研究会で作成した年間計画を踏まえて，大学教員と社会科教育研究会教員等との協働による社会科歴史教材の開発を進めた。2019（令和元）年 11 月 9 日には新潟県社会科教育研究会主催で本学において「教師として理解しておきたい『上越の歴史と風土』」をテーマに報告会を開催した。本会には上越地域の小中特支学校教員等 21 名，大学教員・学生 7 名，その他 2 名の計 30 名が参加した。最終的に，本会での意見交換や大学教員の意見，上越市担当部局からの指摘を盛り込んで原稿を完成させ，2020（令和 2）年 1 月に「令和元年度　上越教育大学公募型地域貢献事業／上越市地方創生推進事業　成果報告書」として『教師として理解しておきたい「上越の歴史と風土」』を刊行した。そして，上越地域（上越市・糸魚川市・妙高市）の小学校・中学校・特別支援学校をはじめ，関係の機関等に本報告書を配布した。

6 本事業で得られた成果	本事業による社会科歴史地域教材の開発と研修機会の提供は，地域の小中学校等教員が地域の歴史を深く理解し，地域の歴史を積極的に教えることを促すものである。地域の歴史を深く学んだ児童・生徒の存在が，将来において上越の地方創生に果たす役割は非常に大きいものと期待される。また，本事業は遂行過程に本学の大学院生等が参加するとともに，本学修了生である現場教員の参画も多い。したがって，大学教員・修了生・現役院生の協働的事業で，大学を核とした幅広い地域教育ネットワークを活用した協働的教員養成・再研修カリキュラム構築に発展するものと考えられる。
7 その他（成果物等の名称）	上越教育大学・新潟県社会科教育研究会『教師として理解しておきたい「上越の歴史と風土」』(令和元年度　上越教育大学公募型地域貢献事業／上越市地方創生推進事業　成果報告書）2020（令和 2）年 1 月 27 日発行，全 133 ページ。